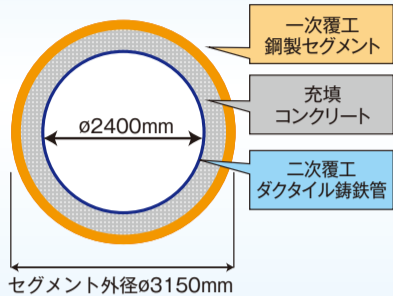
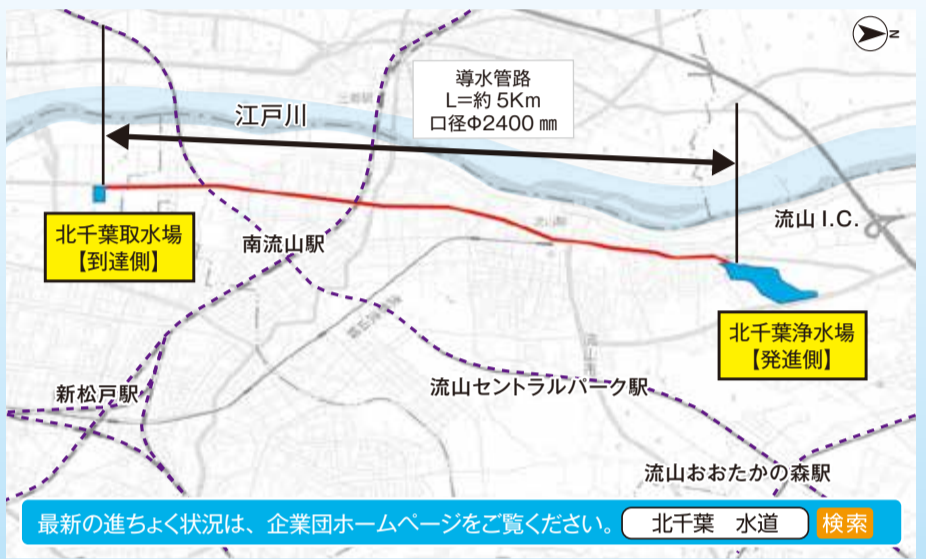
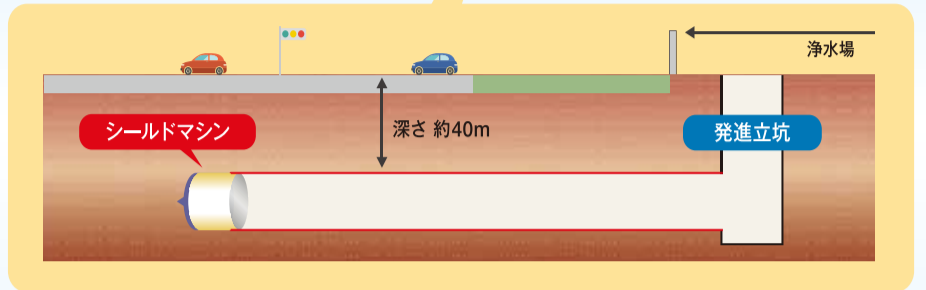
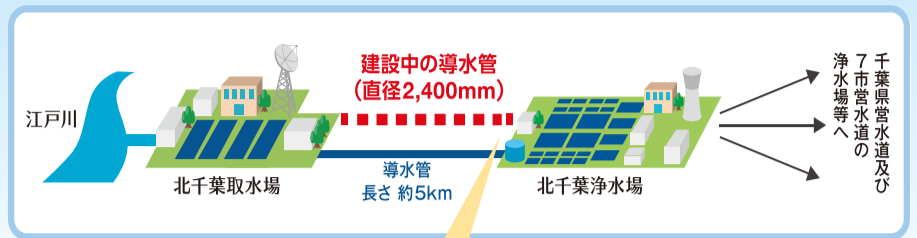


導水管更新事業について

北千葉取水場から北千葉浄水場へ水を送る管（導水管）は、長期間使用しているため更新が必要となっています。この導水管は、水を止めての工事が出来ないため、新たに導水管を作っています。

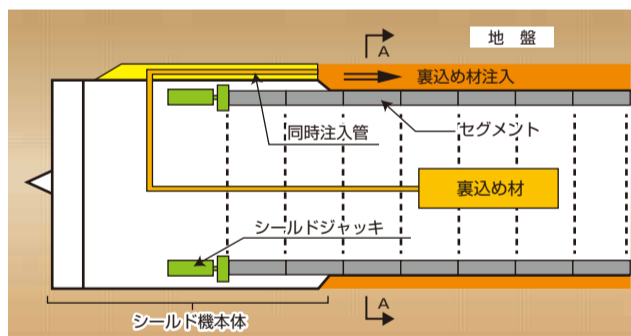


新しい導水管を入れるトンネルは、県道5号線（松戸野田線）の地下約40mのところを浄水場から取水場に向けてシールドマシンで掘り進めています。



安全対策の取組

導水管トンネル築造に伴うシールド工事では、地盤のゆるみを防止するためのさまざまな対策を実施しており、安全施工に努めています



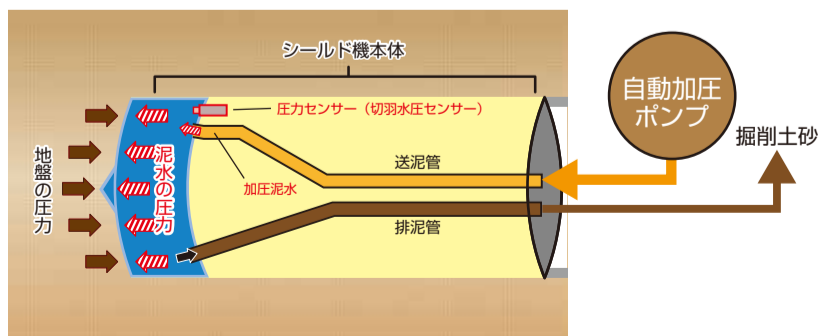
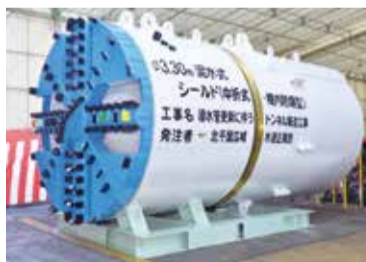
① 裏込め材の同時注入

掘削によって生じたセグメントと地盤の隙間には、掘削と同時にシールドマシンの注入管から裏込め材を充填して、地盤沈下や構造物などへの影響を防止しています。

※裏込め材：主材に効果時間等を調整する材料を混合したもので、15秒程度で固まる。

② 圧力制御装置の設置

シールドマシンの圧力センサー（切羽水圧センサー）によって地盤の圧力と泥水の圧力を監視し、バランスを保ちながら掘削することで地盤沈下や構造物などへの影響を防止しています。



③ 地表面の観測

シールドマシンが通過する地表面に観測点（概ね20mに1箇所）を設けて、地表面に異常がないか定期的に高さを計測しています。シールドマシンが通過するときは、1日に1回以上計測を行います。

